

導入

○自分の気持ちや思いをうまく伝えられなかった経験はありますか。

児童の心の動き

(事前アンケート結果を活用→具体的に聞いてみる)
・遊んでいるとき ・休み時間 ・係活動 ・掃除時間

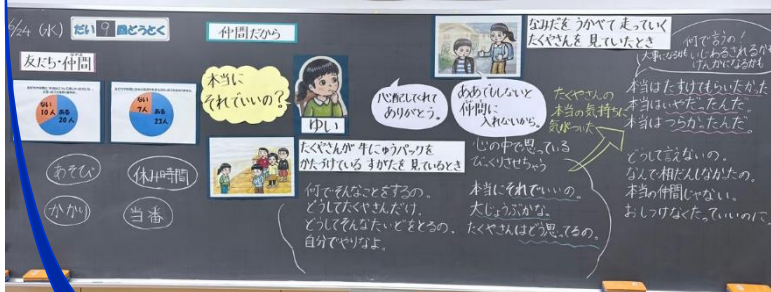
実態

○困っている友達や仲間に声を掛けようとする意識は全体的に高い。しかし、本当は嫌だと思いながら引き受けてしまったり、本当の気持ちを伝えることに難しさを感じている児童も少なくはない。友達の言動だけで気持ちを判断するのではなく、相手の本当の気持ちはどうなのだろうと考えようとする心情を育てたい。

中学年部会(3年)

主題名: 仲間の本当の気持ちを理解する
(B 友情、信頼)

教材名: 「仲間だから」



ねらい★ゆいがたくやの本当の気持ちを理解しようとする気持ちを考えることを通して、仲間の気持ちを理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

工夫

- ・教材を提示する工夫
→ICT を活用し、芝居調で提示する。また、登場人物の気持ちを視覚的にイメージしやすくするために、文字だけのスライドも用意する。
- ・発問の工夫
→登場人物の台詞を吹き出しを活用して掲示することで発問場面の想像をしやすくする。
- ・話し合いの工夫
→座席をコの字型にし、児童がお互いに表情を確認しながら発言したり、考えたりすることができるようにする。
- ・板書の工夫
→児童から出る言葉を内容項目に関係するものとし、ないものに分け、児童が登場人物の気持ちを理解しやすくする。

今日の学習を通して、友達や仲間の気持ちを考えることについて振り返ってみましょう。

涙を浮かべて走っていきたくやさんを見て、ゆいの心にはどんな思いが広がったでしょう。

ゆいは本当の気持ちに気付いたんだね。
皆は今日のお話のようなことはあったかな。
気持ちを考えることについて振り返ってみよう。

(吹き出しの言葉)を言って涙を流して走り出したたくやさんを見ていたとき、ゆいはどんな気持ちだったでしょう。

本当はつらかったんだ。
助けてもらいたかったんだ。

どうして今まで
言えなかったの。

それは本当の仲間じゃないよ。



協議会を通して学んだこと

授業展開について・・・内容項目によっては、児童がすっきりせず振り返りに向かう授業展開もある。そのような展開でも、振り返った場面と似た状況に出会ったとき、自分ならどうするかと考え、判断していく力につながっていくのである。

善い・悪いで判断する授業ではなく、明確な指導の意図をもち、留意されていれば指導方法は多様であってよいものである。

板書の工夫について・・・今回の授業では、教員が児童の発言をメモし、まとめて板書をする展開を行った。今回のように、「児童同士で話しながら」「自分の考えとの違いを比べながら」などの指示を出すと、児童の学びの深まりにつながる。

中心的発問について・・・この教材は、ゆいだけでなく、たくやや周りの児童の関係を考えていく展開も考えられる。例えば、「たくやとゆいの友達関係」や「たくやとゆい以外の友達関係」を比べることのできる発問を経て、中心的な発問に進むことで、児童が気持ちを多面的・多角的に考えることもできる。